



うつほの杜通信

05

皆さまの応援のもと2025年4月に開校したうつほの杜学園小学校の2期目がはじまりました。
日頃より応援していただいているうつほの杜サポーターの皆さまに、学校報告をさせていただきます。



8名の一年生を含め26名の児童とうつほの杜2期目のスタートです。

「それをやる本質は？」「うつほ的か？」「それはウェルビーイングか？」
「子どもたちの学びにつながっているのか？」全てをゼロから積み上げる日々でした。

ゼロから学校を創るということは、「学校」という形を何もない所から考え直し、積み上げていく作業を日々繰り返していくということです。子どもの前に、まずは教職員が学校という形に問いかけ、なぜその仕組みなのか？これがベストなのか？うつほの杜としてどうするのか？ということを随時確認し、議論し、話し合うことです。さもなくば、アッという間に一般的な学校の焼き直しになってしまう、そんなタイミングが沢山ありました。もちろん、今までの学校で行っていることを取り入れることもあります。しかしながら、他の選択肢も検証し、その上でという風にとすると、当然意味合いが大きく変わっていきます。

私たちは、学校組織未経験者もいれば、公立校、私立校など異なったバックグラウンドを持った教員もいて、本当に多様な経験や特技を持ったチームです。それがうつほ的であると言えます。価値観も違えば、それぞれの目標もバラバラ。しかし、うつほの杜学園にある世界、地域、自然とつながる探究的な学校という理念がこのバラバラを一つにまとめ上げ、みんなを受け入れる小学校へと仕上がっていきました。

うつほの杜学園の時間割、アフタースクールの仕組み、バスの中の過ごし方、教員の働き方、空間の使い方、時に子どもたちも入れ、全てを一つひとつ議論し学校の形が出来上がってきましたが、もちろんしばらくすると、また形を変えた方が良いのかも？となってくるのです。そうすればまた変えればよい。自分たちで変えられる学校。それを子どもたちにも常に伝え続けています。



一年間を通した子どもたちの様子

子どもたちによると、「うつほの杜学園は自由な学校！」

3学期からは、2年生と3年生に一人ずつの転入生を迎えました。体験スクールを経て、「前の学校よりもうつほの杜学園が良い！」と子ども自らが選んできてくれた児童たちです。うつほの杜学園のどんなところが良いの？と聞いてみて、子どもたちの回答の中では「自由だから。」その言葉が一番多かったかもしれません。自由な学校に、と思ってやっている訳では決して無いのですが、一般的な学校と比べると授業一つとっても、一人ひとりの児童の個性や特性、またその日の情緒を否定せず、肯定的に支援していく教員たちの姿勢や、答えが決まっていな問いを日々出題され、のびのびと思考することを歓迎している所などは、少なくともうつほの杜学園ならではのスタイルとして確立し、子どもたちにはそれが「自由」という風に映っているのでしょう。週一回行う全学年が参加する「うつほ会議」ではよく、この学校は自分たちで作っていくのだ、という話をします。より良い学校にするために、3学期は各学年でアイディアを出し合い発表をする機会もありました。今後更に成長をするにつれ、どのような表現が出てくるのでしょうか。



大混乱でスタートした春を経て、2学期からは落ち着きを見せた子どもたち。

4月の入学当初は特に2、3年生は異なる学校から転入し、今まで通っていた学校とのギャップに戸惑ったり、喜んだりしている様子も多く見られました。うつほの杜学園は通学に時間が掛かることもあり、2学期からは少しゆとりを持った時間割へ調整を行ってのスタートでした。友人たちのお互いの特性も少しずつわかってきて、「関係性」づくりも少しずつ整ってきました。クラスごとの団結力も出てきたのもこの頃です。1学期はトラブルや衝突も多々あった子どもたちが、2学期になるとお互いを認め合い、仲間意識が芽生えてくる様子も見られてきました。また、学年を超え異年齢で日々遊び合ったりできるのもうつほの杜学園ならではの特徴ですが、今まで余りそういった機会が限られていた子どもたちも含め、大きな子は低学年の子たちを気遣ったり、高学年のやっていることを低学年が真似をしたり、また時に対等に意見を言い合ったりと、一つの大きなファミリーとして関わり合う姿が日々みられるようになりました。

年末の「うつほ祭」では子どもたちが堂々と探究学習を発表する姿が感動的でした。

12月6日、晴れやかな冬空のもと「第一回うつほ祭」を開催しました。子どもたちの日々の探究と創作を学校コミュニティや地域の方々へ発表し、食を通してつながる学園祭です。当日は児童・保護者・地域の方々など約100名が来校しました。半年前までは発表することが苦手であった子どもたちも含め、全員が堂々と舞台の上で学習成果を発表。自分の言葉でしっかりと考えを述べていく様子に大きな成長を感じました。

また図工で制作した影絵劇、英語・探究・音楽の授業発表、全校で育てたお米を味わう昼食など、子どもたちの学びと成長を共有する温かな時間となりました。午後には箏奏者・西陽子氏の演奏と体験会、子どもたちが育てたお米を使ったポン菓子づくりも行われ、会場は笑顔と歓声に包まれました。

3学期は更に学習に取り組む姿勢も意欲的な児童が増え、傾聴力や発言を積極的にする姿も板についてきました。うつほの杜学園では人前で発表をしたり、人に伝えるという機会が多くあります。関係性を身に付けてきた一年でしたが、来年度は更に探究力にも磨きをかけていきます。





2026年4月



2025年度 転入生 2026年度

16+2+8 人

4月からの児童数

12 人

短期スクーリング生

1日～最長1か月、通常授業を体験する児童を国内・海外より受け入れました。

234 人

学校視察数

内167名が県外より

55 人

サマー・スプリング

のべ参加者

うつほの杜学園小学校の一年を数字で振り返ります。普段在籍する児童に加え、初年度から多くの外部生も学びにやってきました。



うっほの探究の時間

山はいのちを生み出している。～山探究授業

Sharing the planet

一年生は「生命」、二年生は「水」、三年生は「山」という大きな年間テーマを掲げ、毎日1～2時間6週間に一つの探究プロジェクトに取り組んできました。こちらでは3年生の山プロジェクトをご紹介します。

はじまりは、山の「機能」について考える所からスタートします。少しはなれた所から山をスケッチするところからはじまり、以下のように探究を進めていきます。

- ①校庭から見える山をスケッチする。
- ②山の中にZoom in。
 - ・ 山で育つ動物について知る。
 - ・ 山で育つ虫について知る。食物連鎖について知る。
 - ・ 山で育つ植物について知る。木の種類（常緑/落葉、針葉/広葉）を学ぶ→校庭で木の分類をする
- ③山探検に行く。
- ④山の外にZoom out。山と人の関わりやつながりに気づく。
- ⑤山に関わっている人の話を聞く。
 - ・ 炭焼き職人「山や木の種類。山とともに生きていくために。」
 - ・ 樹木医「バイオミメティクス。自然が人間にもたらすもの」
 - ・ 「いちいがしの会」



うっほの杜学園の日々の学習の様子をお届け



山と仕事をする人たちへのヒアリングの様子。山に親しんできた子ども達から沢山の質問も。



最終発表では、低学年の子どもたちを集め、それぞれの子どもたちが個別に山プレゼンを行いました。6週間山について探究をした思いの発表に、みんなが聞き入りました。

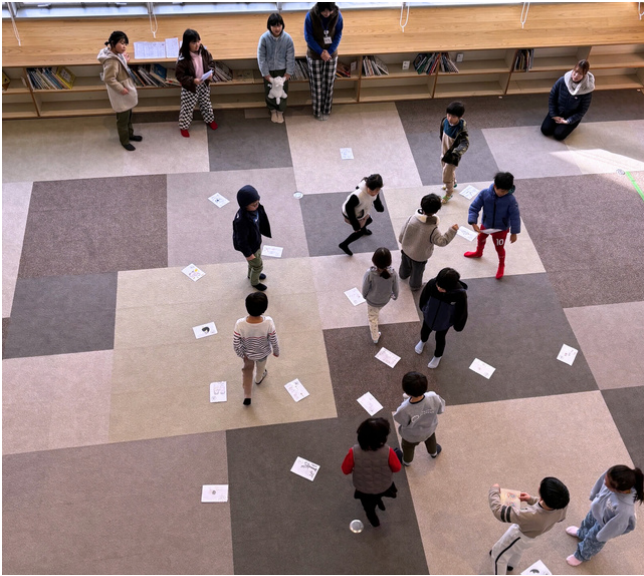


最初は真っ白だった山が、6週間の探究とともにたくさんの考えが詰まったスケッチへ。「山は大事だと思う。なぜなら～」と、体験してきたことを踏まえ熱のこもった各々のプレゼンをする姿が印象的でした。



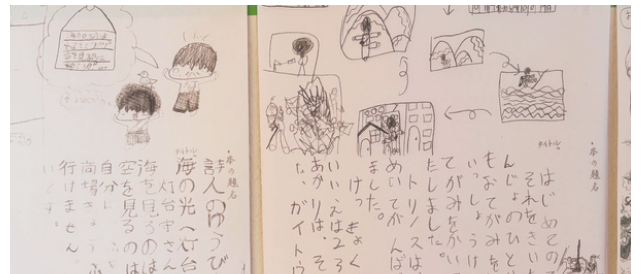
うっほの国語の時間

国語の時間は、「ことば」「読書家」「作家」の3つの要素で構成されており、特に「創造力」を身に付けていることばを使った制作活動が特徴的です。例えばこちらは「かるた大会」の様子。3年生が国語で作ったかるたを、低学年たちに出題する大かるた大会の様子です。



ものがたり作りの訓練

物がたりを読み、その先のストーリーを子どもたちが作っていくということも国語での取り組みの一つです。答えが決まっている問いではなく、自由に言葉を紡いでいく課題を日々こなしていくことにより、少しずつ創造力が育まれています。



ウェルビーイング・コミュニティスクール

遊び場プロジェクト～校庭の遊び場づくり

校舎前の斜面をもっと楽しい場にしたい！
そんな問いかけから、子どもたちと作戦会議し、ランドスケープデザイナーFOLKとともに「遊び場プロジェクト」を行っています。1月に「長い長いすべり台」、3月に「ツリーテラス」を製作しました。大工や建築を学ぶ大学生も参加し、みんなでやすりを掛けたり、柿渋を塗ったり、一日掛けてようやく完成させました。自分たちで作る自分たちの学校づくりはまだまだ続いています。





授業連携、アフタースクール 連携と、沢山つながりました。

本校では授業後にアフタースクールを開催しており、様々な地域の方との交流の場となっています。本活動は、学校教育と地域文化が連携した実践であり、地域全体で子どもの学びと育ちを支える取組として位置づけられていると同時に地域に存在する様々な文化活動を継承し、発展させていくことにも寄与しています。

令和7年度 開催実績

2025年9月～2026年3月

計87回

- ・ 森林組合によるワークショップ
- ・ ヒロメラボによる海洋生物教室
- ・ オレンジサンライズによるサッカー教室
- ・ 読み聞かせサークル「ひまわり中辺路」
- ・ 手芸教室
- ・ 華道教室
- ・ 合気道教室
- ・ 田辺市民総合センター 木工教室
- ・ 富岡 洋さん ウクレレ教室 他



森林組合による木工体験



華道教室



世界放浪の旅を聞く時間
武藤大輔氏



アドベンチャーワールド
による動物とのふれあい体験



地元の団体とのドッチボール



中辺路おやこクラブ



4月

入学式

17人の児童とともに迎えた入学式には多様で元気いっぱいな第一期生を迎えました。



8月

サマースクール開催1期・2期

暮らしの探究、遊びの探究をコンセプトに32名の子もたちが参加しました。



12月

うつほ祭 来場者約100名

学習発表を兼ねた文化祭&食祭第一回では、子どもたちが作ったお米を釜で炊いたりポン菓子にしたりと大いに盛り上がりました。



5月

運動会

入学したての子どもたちがしっかりと役も担ない、保護者も参加型の運動会で大いに盛り上がりました。



9月

稲刈り

春の田植えから関わってきた米作りの最終作業、稲刈りを行いました。



1月

書初めでポーズ

年明けは風作りからはじまり、ダイナミックな書初めを行い良い新年のスタートとなりました。



6月

熊野古道遠足

春の遠足では近隣の近露までの古道を語り部の方の話を聞きながら歩きました。



10月

ハロウィーン学習

英語の時間を使い、ハロウィーンの行事について学びました。コスチューム作りからはじまり、関連単語を学ぶ機会となりました。



2月

案珍清姫演劇上映

ウェルビーイングウィークとのタイアップで会場を提供し、約50名が芸術を楽しむ機会となりました。



7月

川活動

学校の横を流れる中川は子ども達の大きな学び場。川探究、川遊びなど、沢山川で活動を行いました。



11月

アドベンチャーワールドで学ぶDAY

一日の通常科目の授業を動物たちと学んでみる試みを行いました。



3月

KUMANO 教育会議

KUMANO教育会議

1年間の集大成ともいえる児童の探究発表と大人向けの探究シンポジウムを開催しました。児童の成長をみんなで祝福する一日でした。



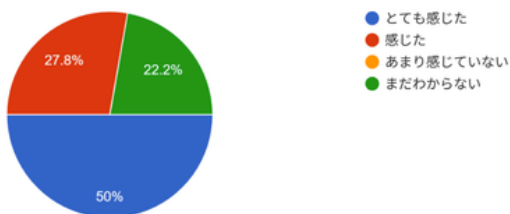
保護者の声に見る子どもたちの成長 1年間の変化と育ちの記録

保護者有志がアンケートをもとにまとめた、子どもたちの1年間の成長記録です。日々の学びや生活の中での変化や育ちを、保護者の視点から振り返ります。

主体性の芽生え ～自分を理解し、表現する～

■ 自分軸

1-1 この1年で、お子さまの「自分軸」の育ちや変化を感じましたか。
18件の回答



この1年、子どもたちは日々の学びや友だちとの関わりの中で、「自分軸」をしっかりと育んできました。

エピソードの中には、「私はこう思う」「これが好き」と、自分の心に素直に向き合う姿が書かれています。

世界にたった一つの「自分らしさ」という花を咲かせるための、大切なつぼみができ始めています。

【保護者エピソード（自分軸）】

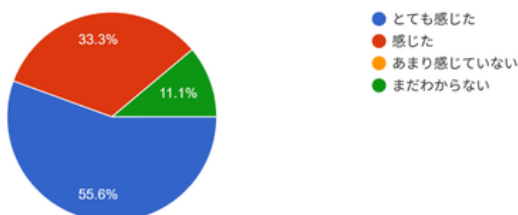
・私はこれ嫌い、私はそうじゃないから、などNOをはっきり言えるようになった。

・自分についての理解が深まっていると感じます。好きなもの、苦手なものを認識して、そこから次の選択を考えているように思います。

つながりの中で育つ心 ～人と関わる喜びと学び～

■ 関係力

2-1 この1年で、お子さまの「関係力」の育ちや変化を感じましたか。
18件の回答



新しい出会いに胸を弾ませ、ときには友だちとの関わりの中で葛藤しながら。そうした日々の積み重ねの中で、子どもたちの「関係力」はしなやかに育まれてきました。

相手の立場を思いやりながら言葉を選び、言語の壁を越えて伝えようとする姿には、確かな成長とたくましさを感じられます。子どもたちは「誰かと共に生きる」ことの意味と喜びを実感しています。

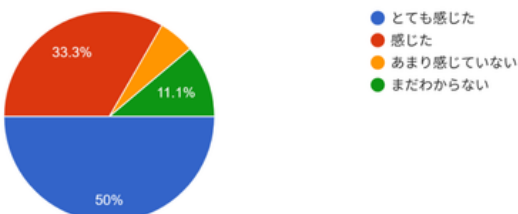
【保護者エピソード（関係力）】

・恥ずかしがって初対面の人とは話せなかったり、だまってしまうようなときがあったが、自分なりの言葉で伝えられるようなことが増えた。また、国が違っても、英語をつかってみようという姿勢がみられた。

答えのない問いを楽しむ ～世界に驚き、自ら学ぶ～

■ 探究力

3-1 この1年で、お子さまの「探究力」の育ちや変化を感じましたか。
18件の回答



子どもたちの日常は、キラキラとした「なぜ？」に溢れています。その好奇心は、単なる疑問に留まらず、自ら答えを探し、納得いくまで取り組む「探究力」へと育まれています。

「当たり前」を疑い、自分の手で世界を解き明かそうとする子どもたちの姿が広がっています。

【保護者エピソード（探究力）】

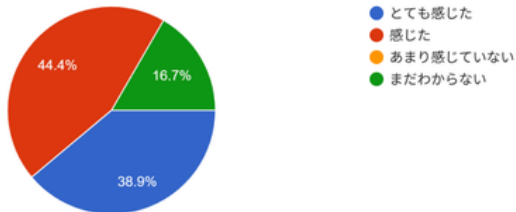
・基本的に家ではリラックスして好きに過ごしている子どもたちですが、家でも「なんでこれはこうなん?」「もっとこうすればよくない?」という会話が aumentato するように感じます。当たり前を疑うという視点や、発想力創造力が育まれているのを感じます。



想いをカタチにする ～自由な発想をカタチに～

創造力

4-1 この1年で、お子さまの「創造力」の育ちや変化を感じましたか。
18件の回答



自由で鮮やかな「イメージの世界」は、夢を見るだけではなく、自分の手でカタチにしたり、誰かに伝えたりする「創造する力」を子どもたちの確かな力となっています。言葉にできない想いを文章に託し、何もないところから新しい楽しみを生み出していく。自分の内面にある豊かな彩りが、現実の世界を鮮やかに塗り替えていっています。

【保護者エピソード（創造力）】

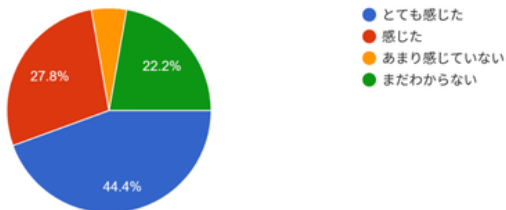
・うつほ会議を通じて、駅伝大会を形にしたことが強く印象に残っています。

・絵に苦手意識があったのに描くことが増えたり、文字を書く事も楽しそうにしているのが印象的です。

最初の一步を刻む力 ～未知の世界へ飛び込む～

冒険マインド

5-1 この1年で、お子さまの「冒険マインド」の育ちや変化を感じましたか。
18件の回答



毎日、未知との遭遇の連続。失敗を恐れて立ち止まっていた心が、いつしか「まずはやってみよう！」というワクワクした「冒険マインド」へと変化してきました。

苦手だった虫のいる田んぼに足を踏み入れたり、新しい味に挑戦したりと、自分なりの「壁」を乗り越えようとする姿に溢れています。最初の一步を踏み出す勇気が芽生え、自らの冒険を紡ぎ始めています。

【保護者エピソード（冒険マインド）】

・苦手なことでも時間がかかってもチャレンジできる様子がみられた。米探究の田んぼで虫が苦手なため、田んぼに入りたくない、などもあったが、挑戦できていた。

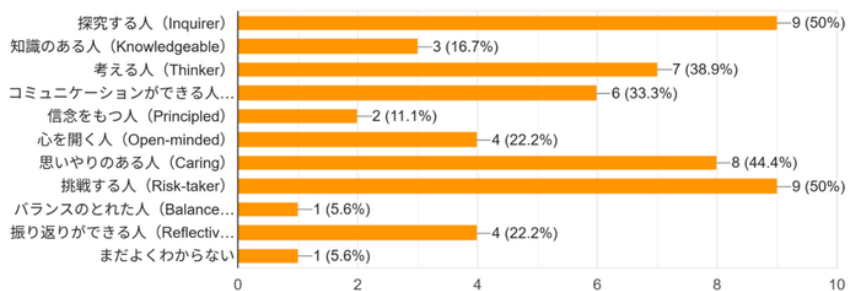
・何ごとにもやってみようと思う気持ちが育まれた。

・苦手なことでも踏み出す力を感じています。

学びを、生きる力へ ～新しい自分への挑戦～



この1年で、お子さまに特に育っていると感じた「IBの学習者像」はどれですか。
18件の回答



国際バカロレア (IB) の「10の学習者像」は、IBがめざす教育の核心であり、異文化を通じてより良い世界を気づくために、人がめざすべき理想の人物像です。

単なる学力だけではなく、人間性や倫理観、社会貢献への姿勢を含めた「全人教育」のあり方を表しており、子どもたちが生涯学び続け、より良い世界を築くための指針となるものです。

うつほの杜学園が大切にしている国際バカロレア (IB) の学びは、1年間の学習を通して子どもたちの日常に様々な変化があり、IBが掲げる「学習者像」が、生き生きとした姿となって溢れてきました。難しい問いに対して粘り強く思考を深める「考える人」。失敗を恐れずマラソンや発表の舞台へ飛び出す「挑戦する人」。そして、他者の痛みに寄り添い、温かな手を差し伸べる「思いやりのある人」。

こうした姿は、これらは単なる知識の習得ではなく、学びを通じて「自分はどうありたいか」を模索し、自分なりの視点で世界との関わり方を見出してきた証です。環境の変化を力に変え、自らの意志でより良い未来を切り拓いていく。そんな力強い一步を踏み出し始めた子どもたちの成長を非常に感じています。



2026年3月

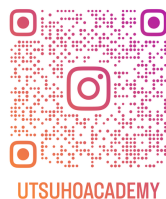


令和8年度は、「じっくり学び、育む」をコンセプトにスタート。
野外授業を行う新教科、「杜」もスタートしています。



うつほの杜SNS

うつほの杜学園は、さまざまな媒体を通して情報発信をしています。それぞれのSNSのうつほアカウントをまだフォローしていなかった、という皆さまはぜひご登録ください。



うつほの杜学園小学校Instagram
ストーリー等も活用し、最新情報をお届けします

うつほの杜学園note.
イベントの告知や開催報告など、
うつほの杜の情報が満載です



公式LINEイベントやお知らせが届きます

うつほの杜学園会Facebook
日々の学校生活の様子をお届けします。



今年もスプリング、サマースクールを開催予定。短期スクーリングも随時受け入れています。

7月29～31日、8月3日～7日に開催決定。普段の授業より更にダイナミックな探究学習ができる機会です。参加者満足度100%！ぜひ皆さまお誘いあわせの上お越しください。



UTSUHO ACADEMY
うつほの杜学園

学校法人うつほの杜学園
和歌山県田辺市中辺路町川合1451
メール：school@utsuho.ac.jp
WEB：https://utsuho.ac.jp

